

# 建設防災 ボランティアニュース 第 58 号

## 目次

- ・ 年頭の挨拶
- ・ 普通救命講習会
- ・ 施設見学会とミニツアー研修会
- ・ きたなん塾
- ・ 後期道路施設等点検結果

## 今年も着実に活動を！！

### —年頭のご挨拶—



新年おめでとうございます。皆様それぞれ良いお年をお迎えになられたと存じます。本年が皆様にとって幸多き良い年でありますようお願いいたします。

さて昨年は、東京都管内では大きな自然災害には見舞われず比較的平穏な年でしたが、9月の関東東北豪雨や日本各地で頻発した地震と火山活動は、改めて自然災害への心構えを我々に喚起させるものでした。

一方、国際情勢に目を転じますと、パリ同時多発テロや世界的な難民の急増、ロシア・トルコの対立など、以前にも増して緊迫と混迷の度合いを深めているように思われます。我が国もオリンピックを控えた観光客の急増や安全保障関連法の改定などの背景を考えると、新たな危機管理の認識をより真剣に持つべき時代に入ったことは、否定できないようです。

しかし、我々が対応すべき自然災害は、これらとは全く無関係に発生する事象ということも明白な事実です。こうしている間にも起こるかもしれない大地震、それに対する不断の心構えこそが協会活動を支える原点であることはいまでもありません。

昨年東京都が配布したハンドブック「東京防災」が大変好評であり、また世相を表す漢字が

「安」に決まった様に、防災に対する都民意識は何時になく高まっています。本年も引き続き、建設局、道路整備保全公社、公園協会と連携・協力を図るとともに、我々の知識、経験そして使命感が、少しでも都民の安全に貢献できればとの願いを抱きつつ、着実に活動を続けたいと思います。

どうぞ皆様の協会活動へのご参加、ご協力をお願い申し上げ年頭のご挨拶とさせていただきます。

会長 杉浦 浩



## 「いざ」という時に慌てないように

### —普通救命講習会開催される—

11月、12月は施設見学会、砂防講習会等の行事が重なるため、今年度はこの時期を避け、多くの会員が普通救命講習会に参加できるように10月上旬に予定し、4月に申込みに行きました。しかし空いている時期が9月の連休後と12月下旬だけだったため、今年度の普通救命講習会は、9月24日(木)及び25日(金)と決まり、新宿消防署で開催しました。

24日(木)は普通救命講習会を初めて受講する6名の会員が、また25日(金)はすでに技能認定証を持っている会員の再講習で、19名の会員の方々が熱心に受講されました。お疲れ様でした。



既に認定証をもらっている会員は慣れたもの

担当理事 二宮克弘

## —万が一のときでも大丈夫！—

シルバーウイーク明けの9月24日(木)、新宿消防署で開催された普通救命講習会に参加しました。出席者はシルバーにはまだまだ遠い、飯塚、林(健)、横井、若尾、柳川、そして藤田の6名でした。また防災ボランティア協会からは、担当の二宮理事が同席されました。

講習の内容は心肺蘇生、AED機器操作を行った後、最後に窒息対応、止血方法を学びました。

はじめに、心肺蘇生では、現場に駆けつけた時点から、救急車が到着し、救急隊に引き継ぐまでの間に行う作業手順と実技を行いました。

まず周囲の状況の安全確認をします。そして傷病者への呼びかけ、周囲の人への119番通報依頼、AED機器手配の役割指示など、措置以前の手順を行った後、心肺蘇生の実施となりますが、かなりの力で早く措置を行わなければならないため、体力を必要とすることを実感しました。人工呼吸も相手が人形で、マウスピースを装着するため、ためらいもなく行うことができました。

次に、AED機器操作です。駅等で見かけてはいるものの実際に扱うことは皆始めてでしたが、いざ行ってみると、はじめに電源を入れさえすれば、機器から作業手順が音声で流れるので、平常心さえ保っていれば、誰にでも容易に操作できます。

最後に、のどに異物を詰まらせる窒息時の対応や、止血方法についても講習を受けるなど、充実した内容でした。

まじめを絵に描いたような参加者たちは、講師の説明を熱心に聞き、実技においても真剣に取り組み、全員無事に講習を終了し、後日、救命技能認定証が配布されることとなりました。

この講習の成果は、実際には活用する状況が生じないことが好ましいのですが、万が一必要な事態が発生した場合でも、この6名の誰かがいれば、最適な応急救命措置が行われることでしょう。



緊張気味の初めて受講する会員



二建班 藤田雅人

## 多摩の大動脈を見る

### —府中所沢線と調布保谷線の見学—

天気にも恵まれ絶好の見学日よりとなった、11月11日(水)、北北建が工事を進めている府中所沢線「JR中央線オーバースタック部」の工事現場と、北南建が整備し、今年の8月2日に全線開通した調布保谷線の見学会を実施しました。他の行事と重なり参加できない方もおられましたが、33名(当初申込み35名)の会員に参加していただき、施工中の橋梁工事と全線交通開放した路線をたどる、中身の濃い有意義な施設見学会となりました。

午後1時、新井副会長の挨拶のあと、藤木北北建所長のご挨拶をいただき、工事一課の高原課

長代理から多摩地域における南北主要5路線及び府中所沢線の事業概要、JR中央線オーバーパス部建設工事等の説明がありました。

午後1時30分に北北建を出発し、上部仕上げ工事中のJR中央線オーバーパス部を見学しました。橋長199.5m、幅員24m、鋼5径間連続鋼床版桁の橋梁で、橋上に上がってみると、橋梁前後の用地取得や工事の進捗状況が一目瞭然でした。



#### **JR 中央線オーバーパス上から事業用地を見る**

午後2時30分に現場を出発し、府中街道、甲州街道を経て、35分後に神代植物園駐車場に着きました。

北南建の齋藤所長からご挨拶をいただいたあと、工事一課の黒木課長から調布保谷線の事業説明、全線開通後1ヶ月の利用状況等について克明な説明がありました。

現場へは2班に分かれて行き、調布保谷線「調布区間」の環境施設帯(両側10mづつ)を見学しました。環境施設帯は公募した地元住民との「整備検討協議会」で整備内容の合意形成を図りながら整備したものです。開放から5年が経過し、環境施設帯の樹木は大きく育ち、緑豊かな素晴らしいものでした。



**御説明いただいた黒木課長と齋藤所長**

その後、バスに分乗し「西東京区間」に向かい、「西東京東伏見トンネル」の上部に整備された東伏見公園及び西武新宿線の跨線歩道橋を歩きながら見学しました。整備前の光景とは一変し、緩やかな起伏のある広々とした公園内の園路(歩道)と縦断方向に優美な円弧を描く跨線歩道橋は素晴らしかったです。

その後、西武池袋線のアンダーパス部「西東京下保谷トンネル」に向かいました。現場では、都道では珍しいエレベーター付きの歩道橋が設置されていて、会員は強い関心を寄せていました。

最後は、車中から埼玉県境の整備状況を見ながら、予定より少し遅れましたが午後5時15分に解散場所の「西武ひばりヶ丘駅」に到着し、施設見学会の全行程は終了しました。

施設見学会を実施するに当たって、北北建と北南建の所長をはじめ多くの皆さんには大変お世話になりました。見学会のための準備も含め貴重なお時間を割いていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。有難うございました。

担当理事 藤田 進

### **-事業に携わった職員の苦勞が伝わる-**

天候にも恵まれた11月11日、府中所沢線とJR中央線とが交差する橋梁部(北北建管内)及び、今年8月に全線開通した調布保谷線(北南建管内)の施設見学会に参加しました。

北北建で府中所沢線の事業概要及び進捗状況の説明を受けた後、2台のバスに分乗し、JR中央線オーバーパス橋梁の現場に向かいました。この橋梁は、私が北北建時代に関わっていたので関心がありました。

送り出し工法による桁架設は、JR中央線のき電停止後、一晩で14メートル送り出し、3晩かけて架設したとのこと。私も朝の通勤電車から、日々伸びていく桁の光景を思い出しました。



### スカイツリーが見える



橋の上からは、用地取得もほぼ完了した事業地を、北側は国分寺3・4・6まで、南側は国分寺3・4・3(多喜窪通り)まで見通すことができ、事業が着実に進捗していることがうかがえました。また、東京方面の線路の延長線上にはビルの谷間に東京スカイツリーが眺望でき、東京の新たな名勝?になるのではと思いました。

その後、調布保谷線に移動し、調布・三鷹区間、西武新宿線との交差部及び西武池袋線との交差部を見学しました。今回の全線開通により、甲州街道から埼玉県境までの所要時間が、約70分から約40分に短縮されるとともに、周辺道路の交通量が緩和され、大きな事業効果が発揮されているとのことです。

調布・三鷹区間で、路線全体の概要説明を受けた後、新たな試みとして、住民参加型による道づくりとして実施した様々なタイプの環境施設帯(副道タイプ、緑地タイプ)のモデル整備区間を歩きました。

西武新宿線との交差部では、河川事業(石神井川)と公園緑地事業(東伏見公園)との三事業連携による一体的な整備により、南北方向のアクセス機能の向上、防災性の向上、緑の創出が図られていました。また、西武池袋線との交差部では、地下歩道・鉄道横断歩道橋と併せてエレベーターも設置されており、地域の実情を考慮した整備がされていました。

今回見学した施設は、従前の機能の確保、または向上を図るために、沿道の利用状況や地形に応じ工夫した道路構造になっており、それぞれの事業に携わった職員のご苦勞が伝わってきました。

お忙しい中、丁寧な対応をしてくださった北北建の藤木所長・飯村課長及び北南建の齊藤所

長・黒木課長をはじめ、職員の皆様ありがとうございました。



JR 中央線オーバーパス上で全員集合

北北建班 飯塚政憲



## 勝どき橋ミニツアーお陰様で10年

### — 研修会及び記念行事開催 —

平成17年5月12日に第1回のミニツアーが開始されて以来、10年が経過しました。この間、一件の事故もなく円滑なツアーが実施され、また参加者からも好評を頂いております。これも関係の皆様のご尽力の賜と感謝いたしております。

毎年実施しております研修会(11回目)が、11月26日(金)に、東京都・東京都道路整備保全公社そして当協会からの計53名の参加のもとに開催されました。

午後3時に杉浦会長の「本日の研修会はツアー案内の情報の共有と確認をする場であり、有意義なものになることを願っています。」との挨拶から始まり、建設局の川合道路保全担当部長からは「ミニツアー10周年おめでとうございます。多くの案内回数を重ね、時には過酷な中でのツアー実施に心より感謝します。」との心温まる御挨拶をいただきました。

続いて道路整備保全公社の玉置担当係長から、今年度の案内実績とマスコミ取材及びツアー参加者の「説明の声がよく聞き取れないこともある。」という感想など、今後に活かしたい貴重な報告があ

りました。



**熱心に研修を受ける会員**

次に道路管理部の紅林橋梁構造専門課長による「橋を楽しもう—全国の珍橋・奇矯」と題した講演をお願いしました。ご自身が現地を訪れた！、全国の100以上の様々な橋の写真により、歴史、構造、背景から蘊蓄に至るまで、紅林課長の博識と話の面白さに心を奪われた1時間半でした。紅林課長には講師をお引き受け頂きまして厚く御礼申し上げます。



**講演中の紅林課長（上）と  
紹介された珍橋・奇矯の例（下）**



**ここまでやるか！  
「かえる橋」**



**なぜこの形？  
「縄文橋」**



**たまらん！  
「とっくり橋」**



**丸く収まれ！  
「円形橋」**

講演終了後、10周年記念行事に移りました。まず主な経緯等をまとめた資料「活動10年の歩み」をもとに、これまでの10年間を簡潔に振り返りました。特に、当協会がツアーを担うに際し、安全対策や説明内容の検討等々立ち上げ時の役員さんのご苦勞がしのべられます。言わば手さぐり状態で発足したツアーも順調に推移し、この間支援された方は147名を数えます。このうち現在まで継続して支援されています23名の方々を表彰させて頂きました。

一連の行事が終了し、現担当理事としては、安堵している一方、今後5年、10年と継続させ、ツアーの更なる発展に向けてのつなぎ役としての努力が欠かせないものと痛感しています。それには、新しい支援者が必要です。随時、参加希望を受け付けておりますので、自薦他薦を含めよろしくをお願いします。

1月14日からは、1班5名、計12班で担当する案内も第41巡目の活動に入ります。引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

全ての次第終了後、場所を二庁4階に移して、懇親会が開かれました。斉藤保全課長、石坂一建所長、杉橋公社道路部長など、多数の建設局、公社の幹部も駆けつけてくださり、賑やかかつ和やかな懇親会となりました。担当理事一同心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



懇談する会員



ご参加いただいた

川合保全担当部長、石坂一建所長、本間専門課長

勝どき担当理事 堀中 逸

### 一案内員として参加してー

勝関橋ミニツアーは、開設以来10年目を迎えた節目の年でしたが、私は建設防災ボランティア協会員となって、1年が経ちました。

昨年、この研修会にはじめて参加し、案内の概要、橋の歴史などを勉強するとともに、支援者の皆さんに紹介され、懇親も深めることが出来ました。それ以降、案内員としてミニツアーに4回参加し、ようやく慣れてきたところです。

今回改めて研修会に参加して、ミニツアーの現状、10年の歴史、そして紅林課長のすばらしい講演で勉強させていただきました。私からは案内員としてのこの1年を報告させていただきます。

事前に頂いた「勝関橋ミニツアーガイドブック」は案内の手順、ミニツアー参加者への安全対策の留意事項や説明内容等が丁寧に書かれていて、そのまま暗記すればすぐに役立つ優れたもので、頼もしいバイブルでした。

しかし、緊張して参加した初回の「今日は何もしないで見学でいいよ」とのメンバーの優しい一声

に甘え、2回目まではツアー見学者に混じって、説明員と見学者の一挙手一投足をしっかり観察・勉強をさせていただきました。

そのかいあって3回目からは、心配や気後れすることなく自分流の案内ができ、大いに助かりました。また、見学者の満足気な笑顔と、「ありがとうございました！」の一声には、安堵感と参加してよかったな～といった、満足感に溢れました。

現在案内人として自分なりに注意していることは、

- ① 説明のうまい下手はともかく、事故なく終わり、全員が時間内に資料館に戻れること。
- ② 参加者は年配者が多いので、移動はゆっくり、説明はゆっくりはっきりと。
- ③ 専門用語はできる限り平易な言葉に変えて。の3つです。

私の説明で、ツアー参加者に勝関橋のすばらしさや、仕組みや設備に対する驚きと感動、そして施設保存の気持ちを持っていただけるような案内ができたかと願っています。

また、ツアーに参加されていない会員も、ミニツアーを参加体験してみてください。お客様の笑顔が自分に返ってくることを実感されると思います。ご参加を心よりお待ちしております。

三建班 柳川宣彦



### 「達成感」とは？

#### ー「きたなん塾」に参加ー

昨年続く2回目の、『「きたなん塾」東京都 OB に聞く』に参加させていただきました。今回参加した会員は、北南建班 10 名のうち古川、柿塚の両顧問と、池田、小島、内山、舛原、山崎の各会員及び新川の 8 名である。

今回のテーマは、「住民対応と住民合意形成」であった。事務所側からの参加は、入都 1～5 年程度の職員で、これから東京都を背負っていく



方々である。

まず、齋藤所長の挨拶から始まり、続いて協会員の自己紹介と様々な事例について、自身の経験談を披露した。



### 豊富な経験を披露

古川顧問からは、北南建管内ではJR中央線三鷹～立川間、「小田急小田原線梅ヶ丘駅～喜多見駅間」、京王・京王線府中駅周辺、調布駅周辺の連続立体交差事業により、多くの鉄道が高架または地下となっており、このうち小田急小田原線の線増連続立体交差事業について、住民との合意に向けた、地元説明や行政裁判などについて多くの資料をもとに説明をしていただいた。この経験は貴重なものであり、最高裁判決までの経験はなかなか無いことであったと思う。

次に、柿塚顧問から、住民との合意形成の経験談として、環状第3号線の赤坂プレスセンターの事業による橋梁への遮音壁の設置や、六本木トンネルへの防音壁設置について話があった。一般道で実施したことが無い遮音壁を設置することで住民との合意形成を図り、開通に漕ぎ着けた事例を通し、当時の職員として苦労したお話であった。このことが環状第8号線の若木地区の防音壁の設置に繋がっている。

その他の会員からも住民との対応に必要なことは、住民の話を良く聞き、丁寧な説明を通しての信頼関係の構築であること、また自分が住民の立場だったらどうかという柔軟な発想も必要であるなど、長い経験を通しての話で会は盛り上がり、予定時間が迫ってくる状況となった。

しかし現役職員からは、東京都OBとして経験

について多くの質問を頂いた。そのなかで、「東京都職員になって1年目です。私は仕事の達成感を覚える時がありますが、OBの諸先輩は、どのような時に『達成感』を感じていましたか」という質問には、出席した会員が顔を見合わせ、「ざわざわ」という感じであった。

若い時にまで遡って考えても、なかなか「達成感」を経験したかと問われると答えが難しく、「忙しい」だけが記憶に残るとか、「達成感」は係員、課長代理(係長)、課長、部長(所長)、局長の立場、立場で違いがあるなどの説明をした。また現役時代に「達成感」として思ったかは疑問だが、今考えて「達成感」を感じているものがあることなどをそれぞれの会員が説明した。なかなか厳しい質問ではあった。

その他、住民気質のようなものが現在と過去では違いがあるか等の質問もあった。多くの質問に対し短い時間の中で、どれだけ理解されたかは疑問だが、これからの長い都庁生活で、今日話したことが理解していただける時が来るとことを期待し、最後に全員で記念写真を撮って散会となった。

その後、協会員と現職管理職との懇親会が開かれ、さらに深い経験談などの話に花が咲いた。その席では、「やはり時間が短かった」などの意見も出て、今回は、二部制にするか？時間を延長するか？などの意見が出ていた。次回の「きたなん塾」は、どんなテーマにするかと皆で考えながら御開きとなった。



### 参加者全員で記念写真

北南建班 新川 彰

## 前期道路施設等点検

後期の「道路の施設とバリアフリー点検」が10月27日から12月8日の期間で実施され、前期より9名多い68名の会員が参加しました。おかげさまで今年度の点検も無事終了しました。この活動は道路の点検ばかりでなく、最近建設局で増えている現職若手職員と共同で点検を行うことを通して、参加した会員の知識や経験を伝える場になると思います。ぜひ来年もよろしくお願いいたします。詳細は下表のとおりです。

事務所	実施日	参加協会員
一 建	11/4・9・11	3名
二 建	11/16～12/18	7名
三 建	11/26～12/8	11名
四 建	11/19～27	12名
五 建	11/6～20	4名
六 建	11/20～12/6	3名
西 建	11/4～13	10名
南東建	11/26	8名
南西建	11/6～25	5名
北南建	10/27・11/4・6	3名
北北建	12/2	2名
計	11/4～12/18	68名

担当理事 久保田元久



点検に参加した三建片岡副所長と職員及び会員

## 新規会員の紹介

星野 宏充 さん(六建班)  
青木 正 さん(西建班)  
廣木 良司 さん(二建班、砂防)  
山縣 政彦 さん(西建班、砂防)



よろしくお願いいたします。

### ※ 協会からのお知らせ ※

- ① 各班の活動報告をお待ちしています。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。  
林アドレス([mikio.hayashi@okumuragumi.jp](mailto:mikio.hayashi@okumuragumi.jp))
- ② 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア掲示板)も、たまに閲覧してみてください。  
アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

### \*\*\*編集後記\*\*\*

新年おめでとうございます。今号は誌面に余裕があるため、初めて後記を書いてみます。まず毎回の記事の執筆について、皆様快くお引き受けいただき心より御礼申し上げます。編集を引き継いでから2年目に入り、ようやくコツらしきものも分かってきました。なるべく沢山の方に書いていただきたいと思っております。今後ともより良いニュースとなるよう努力いたしますので、御協力方よろしくお願いいたします。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

